

◆子どものアートが、アウトドアグッズに!! コールマンによるチャリティ商品販売

世界中の子どもの描いた、たった一枚の絵。その絵をデザインにしたアウトドアグッズが製作販売されることになりました。キャンプ用品業界のトップ企業である「コールマン」のご協力により実現しました。

■チャリティ商品・販売価格

- ・ポトルクーラー ¥800 (税込 ¥840)
- ・ジャグアンドクーラーカバー ¥2,000 (税込 ¥2,100)
- ・トートクーラー ¥3,000 (税込 ¥3,150)

※ 商品価格のうち一部がチャリティとして子供地球基金へ寄付されます

■販売元：コールマン・ジャパン株式会社（2005年6月販売開始）

※ コールマン・ジャパンのサイトからご購入いただけます。(www.coleman.co.jp)



◆クローチア活動報告会を開催しました! 4月25日(月)

日頃なかなかお伝えしきれない、子供地球基金の海外での活動や子どもたちを取り巻く様子などを、映像などを使ってより分かり易くお伝えしたい、そんな思いから企画した報告会の第1段は、「クローチア」.<第1部>では、1996年に第1号キッズ・アース・ホームを設置してから10年の活動を中心に、ゲストスピーカーの方に歴史や民族紛争の原因などをセミナー形式で行いました。<第2部>では、クローチアハーブティーを楽しみながら、ご参加者全員との懇親会。NPOや個人として、すべき支援のあり方や子どもたちに対する思いなど、普段はなかなか聞くことのできない話をしながら、和気藹々とした雰囲気でした。

◆キッズ・アース・アワード 2005

第2回となる「キッズ・アース・アワード 2005」は、新堂彰子さんと宮崎裕子さんへ贈られました。新堂彰子さんは、ワークショップを中心に、自ら子どもたちのケアの実践に参加するだけでなく、多くのワークショップ開催を実現に結び付けていました。宮崎裕子さんは、事務局での仕事を中心に定期的にサポートしていただき、手作りのクッキーやパンを子どもたちのために作っていただきました。

このアワードは、子供地球基金がその活動の大半を支えていただいているボランティアの方々の中から、毎年2名(個人/グループ)に贈るものです。

〈選考基準〉

- ・個人としてのボランティアとして活動している
- ・長期に渡り活動を継続している
- ・下記いずれかに該当する内容で貢献して下さった方

【広報分野】・・・子供地球基金の「認知度をあげる」「イメージアップ」などの広報活動を行う
【実践分野】・・・子供たちへの直接支援での成果を挙げる

〈選考方法〉

- ・自薦他薦の中から、子供地球基金理事メンバーと事務局の話し合いによって選出



◆Charity Wine Party チャリティワインパーティーのご案内

いつも多彩なゲストをお迎えし、気軽にご参加いただけるワインパーティーです。子どもの絵をラベルにした「キッズ・アース・ワイン(榎ルミエール)」を味わいながらの楽しいチャリティに、是非ご参加下さい。

開催日：毎月第1木曜日 18:30～20:30

会場：キッズ・アース・ギャラリー(東京都渋谷区恵比寿 3-29-9)

※ お申込みは子供地球基金事務局まで(Tel: 03-5449-8161 又は E-mail: info@kidsearthfund.org)

〈年間スケジュール予定〉

7月 7/7(木) 9月 9/1(木) 11月 11/3(木)
8月 8/4(木) 10月 10/6(木) 12月 12/1(木)

※ 変更・中止になる場合もありますので、詳しくはHPをご確認下さい。



◆個人情報保護対策についてのお知らせ

子供地球基金では、個人情報保護法対策として、以下のようなことを実施いたします。

- ・独自のプライベートポリシーの制定 / 事務局員教育の徹底と誓約書への署名 / その他プライベートポリシーに基づく個人情報の管理・保護

なお、各種申込みなどを通じて皆様からご提供いただく情報については、子供地球基金の活動以外では使用いたしません。詳しくは子供地球基金HP(www.kidsearthfund.org)をご参照いただくか、事務局までお問合せ下さい。





第4号キッズ・アース・ホーム ホーチミン・ストリートチルドレンのための学校

ベトナムでは9月が年度初めです。第4号キッズ・アース・ホーム*の子どもたちは、7月に始まる長い夏休みの前に、1年間のまとめのテストを受け、みんな一生懸命とくりくみました。このホームに現在いる約300名の子どもたちのうち40名は、様々な事情で家を失い、このホーム付設の寄宿施設で生活しています。

ホームの子どもたち40名にアンケートをとりました

好きな科目	好きな遊び
1位 算数	1位 手紙の交換
2位 歴史	2位 テニス
3位 書き方	3位 絵の交換
4位 その他	4位 卓球・サッカー

好きな科目の1位は算数です。家がある子どもたちも、家計を支えるため、放課後には路上で花や宝くじを売りながら暮らしており、計算はとても得意です。また、日本からご支援くださる里親の方々は、年4回お手紙をお送りしています。子どもたちは書くことも、お返事を受け取ることも楽しみにしています。日本からご支援くださる皆さまのおかげで、日本にとっても興味を持ち、将来の夢へ向かって一生懸命勉強しています。

* 株式会社ワールド航空サービスと現地 NGO の FFSC のご協力により、2002年ベトナム・ホーチミン市に建設。このホームは、戸籍がない、授業料が払えない、孤児である、など様々な理由で公立の小学校へ行くことのできない子どもたちのための無料の学習施設で、運営はカソリックのシスターらにより行われている。

Messages from Vietnam ～ホームに暮らす子供たちから～

ファン・フーン・ティエン・タン 9歳 (女)

こんにちは。私は第4号キッズ・アース・ホームに通っています。ベトナムは今とても暑いんです。日本はどうですか？ 私たちは、日曜日にはテニスをして、楽しんでいます。私たちのホームへいらっしゃる日本のお客さまは、いつもきれいで、とってもやさしい笑顔をしているの。だから私もクラスの友だちも、日本の方が大好きです。皆さんも機会がありましたらぜひ私たちのホームへいらしてください。皆さんに幸せがおとずれますように。



NEW MEMBERS

新規にご入会いただいた方々です

(個人会員) 大野 喜之 様

(団体会員) 株式会社 江戸町商会

(里親) 佐保田 香織 様

※ベトナムのキッズ・アース・ホーム(ストリートチルドレンの学校)へ通う子どもたちの里親の方です。

(2005年3月1日～5月31日現在・五十音順)



ご報告 「キッズ・ケア・カンボジア」が現地NPO となりました！

2002年10月にスタートした「キッズ・ケア・カンボジア」。立ち上げ当初から、子供地球基金の他にも複数の団体で運営を行って来ました。「キッズ・ケア・カンボジア」の専属医師(カンボジア人)が新たに現地でNPO(Cambodian Poor Children Fund Organization)を設立し、より現地に根ざした運営を行うことが可能となり、2005年4月に再スタートしました。それを機に、子供地球基金は運営する立場から支援する立場へ移行し、今後も側面的に支援を続けてまいります。



4月 慈恵医大附属病院

今回のテーマは「Message Boat in the Bottle」。小さな折り紙に、子どもたちが願い事を書き、ボートの形に折り、糸でつるして、ボトルに入れました。4月から、子供地球基金専属アーティストとなった、五十嵐靖晃が今回のリーダー。7月から4ヶ月間、南の島へ航海に出る五十嵐さんが、みんなのボトルを海に流してくれる予定です。ボトルに詰まった子どもたちの想いは、病院に居ながらにして、大海原に旅にでます。世界の何処の海岸に辿り着くのでしょうか？



Friends Chain

4月9日西町インターナショナルスクールで「インド洋大津波被害者へ」のテーマでアートワークショップを行い、約100名もの子どもたちが参加してくれました。色とりどりのひもでプレスレットのお守りを作り、キャンバスに輪を描く。この作業を2回繰り返してできた2つのプレスレットは、1つは作った子どもたちが身につけ、もうひとつは輪のようにつけていき、Friends Chainとして、スマトラ地域へと届けられます。このワークショップでは同時に、スマトラ地域の子どもが描いた絵画も展示し、子どもたちに被災者への想いを感じてもらいました。(右写真)



冒険の旅 海へ行こう！

キッズ・アース・ギャラリーの小さな庭へ、『作太郎』がやってきました。『作太郎』と名前のついたボートは、アーティストグループ『またたび』が長崎県・天草で行ったワークショップで活躍した一艘のボートで、はるばる東京・恵比寿までやってきました。子どもたちは、『作太郎』に乗り、広い海へ「冒険」に出かけることにしました。冒険の舞台「海」は、子どもたちが『またたび』のメンバーたちと、絵の具で描きます。みんなで力を合わせ、真っ青なすてきな海ができました。子どもたちは、『作太郎』に乗りながら、目の前に広がった絵の具の海に、大きなお魚や波をイメージしながら、冒険へ出かけました。(下写真)



SPECIAL NEWS

2005年度 「日本文化デザイン賞」受賞！！

「日本文化デザイン賞」(日本文化デザインフォーラム)に、長年に渡り子どもたちの絵画を通して、全世界規模のチャリティーや啓蒙を行ってきたことへの評価と今後の更なる活動を期待して頂き、子供地球基金が受賞。5月15日に名古屋での授賞式に代表鳥居と事務局のスタッフが参加いたしました。

- ・「世界の子どものために文化的な活動をしているオトナ」
- ・「子どものときの幼心を忘れないでクリエイション活動をしているオトナ」
- ・「オトナと子どもを結ぶ文化的な活動をしている個人、団体」
- ・「かつての子ども、いまの子どもに夢を与えている企業」

このような選考基準で選ばれた2005年度「日本文化デザイン賞」受賞者は以下の通りです。(敬称略)

〈日本文化デザイン大賞〉

・谷川俊太郎 (詩人)

〈日本文化デザイン賞〉

・アンパンマン

・大倉正之助 (重要無形文化財総合認定保持者、

日本能楽界会員、能楽囃子大蔵流太鼓)

・子供地球基金 (特定非営利活動法人)

〈特別賞〉

・中尊寺ゆつこ (漫画家*故人)

〈審査委員特別賞〉

・お子様ランチ (お子様に人気の料理満載、明るい夢を与える一皿)



(受賞者の皆さまと共に)

前列左から子供地球基金代表 鳥居晴美、やなせたかし氏、谷川俊太郎氏、他。

〈日本文化デザイン賞とは〉

狭義のデザインの枠を超え、社会文化に新しい角度から働きかけ、大きな貢献を果たした個人や団体の活動に対して贈られるものです。



コラム DEAR KIDS, DEAR THE EARTH vol. 10

菊間 潤吾

株式会社ワールド航空サービス 代表取締役社長 / 子供地球基金 顧問委員

今から30年ほど前のことである。旅行会社で語学研修の旅を担当している私のところに、おとなしい清楚なお嬢さんが父親とともに訪ねてこられた。フランスへの語学研修は当時は大変珍しく、娘ひとりで渡航させるお父様はかなり心配されていて何回も会社にいらっしゃった。しかし、当の本人は全然動じる風ではない。私は添乗員としてフランスへ同行し、滞在先の家庭まで案内した。まだ若く初めての海外なのに、ずいぶんと芯の強い娘さんだとの印象を受けた。

それから25年ほど経った頃、知人の弁護士からユーゴスラビアの内戦で心身に傷を負った子どもたちのために施設を造ろうとしている人たちがいる、協力してもらえないか、との話があった。仕事柄海外との関わりは深く、特に東欧や中近東、インドシナにはツアーを多く送り出している。現地の実態を知る者として、何かしらの支援を行いたいと思っていただけに、そのような活動をしている日本人がいることをうれしく思い、お目にかかることにした。

日比谷にある私の部屋を訪ねてきた「子供地球基金」の代表は30年前にフランスへお連れした晴美さんだった。30年ぶりの再会となったわけだが、彼女のたくましい変貌ぶりに驚かされた。また、その話は志が高く説得力もあり、バイタリティに富んだものだった。以来ベトナムのキッズホームやカンボジアの学校と協力させていただいている。

この活動を通じてうれしかったことは、若い社員たちが子供地球基金の活動に賛同してくれることだ。多くの社員たちが里親として自ら名乗り出てくれて、今も何十人ものベトナムの子どもたちと心を通わせている。

観光というと異国の華やかなところに目を向けることが多いのだが、その国のことをよく知り、応援すべきはしていく、その積み重ねが真の国際交流に役立っていればと願っている。

子供地球基金のスタッフの皆様にはいつも感謝している。



展覧会

●愛知・名古屋

5月15日(日)
名古屋市立山吹小学校
「日本文化デザイン賞」授賞式にて

●東京・渋谷

6月2日(木)～6月14日(火)
電力館・TEPCOギャラリー

●東京・丸の内

7月中旬～8月中旬(予定)
「キッズ・アート・ストリート」
丸の内仲通り各店舗

●東京・六本木

6月20日(木)
「アートフェア東京交流会」にて

